

将来設計(キャリアプラン) と準備について

卒業直後の希望進路（所属箇所別） 20

現在の経済状況でも公務員志望者は1割程度

公務員：9.9%、民間企業：37.4%

卒業直後の希望進路（学年別） 22

公務員や教員を目指す人の比率は4年生になると半減

3年：18.0% $\Rightarrow$ 4年：9.3%

民間企業志望者とインターンシップ..... 24

大学はインターンシップの仲介・相談業務の一層の充実を！

インターンシップについて躊躇する要素（民間企業志望者）

「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」 **37.3%**

「どれが自分に有効か分からない」 **25.4%**

「準備を相談する相手がいない」 8.1%

将来設計に向けた準備状況：学部間の差…………… 26

資格の法学、学問の理工、語学の国際教養…

法学部「資格試験対策」44.4%、

理工学部「学問・研究に励む」**51.1%**、

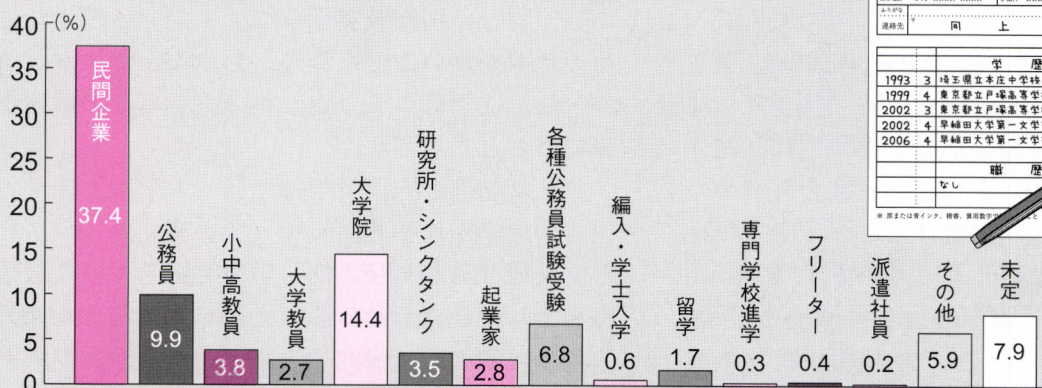
国際教養学部「留学・語学習得」76.2%

卒業後の希望進路決定時期..... (28)

過半数の学部学生は希望進路を大学時代に決める

「希望進路を考え始めたのは大学に入ってから」と回答した4年生：66.2%

○ 学部、研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？



履歴書			
2023年4月1日現在			
ふりがな 氏名	早稲田 健一 ●男	誕生日	
出生地	東京都文京区 4月21日生まれ(満年齢)	現住所	
ふりがな 現在所	東京都千代田区新大塚1丁目1番1号	電話番号	32XX-XXXX
メールアドレス	03-XXXXX-XXXX E-mail XXXX@XXXX.jp	電話番号	03-XXXX-XXXX
通称名	同上	通称名	32XX-XXXX

学歴	
1993	2期玉置立本中学校卒業
1999	東京野立平塚高等学校入学
2002	東京野立平塚高等学校卒業
2009	早稲田大学第一文学部入学
2016	早稲田大学第一文学部卒業見込

職歴	
なし	以上

※ 親または養父(母、継母、養育者)の氏名を記入してください。

自己紹介書

志望動機

御社がグローバルに展開する企業に興味を持ちました。御社が●●が高いことを誇りに思っています●●では文化・国民性、時勢について学びます●●高層から世界情勢を俯瞰したいと剣戟で学びたいと思っております。
入社後は

得意な科目または研究課題

- 英語
- 国語と周辺国と文化史
-

弱点/苦手

●●国へ1年間留学しました。現地生活は楽しかったです。留学から帰った後、日本語を勉強して、今度受験しました。

クラブ活動・スポーツ文化活動など

外国語研究会に東京行を企画し、旅行計画を立てていました。

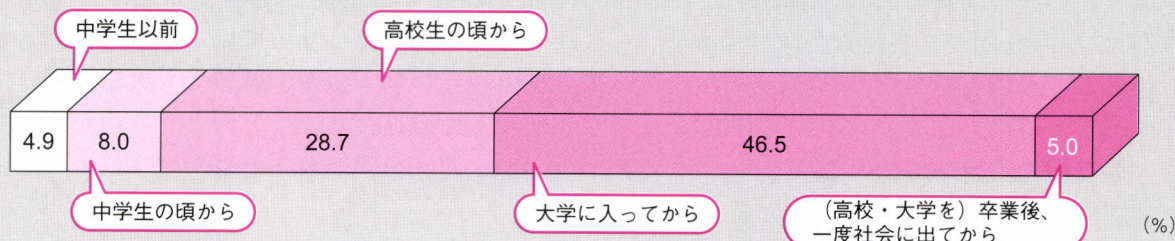
趣味・特技・免許・資格

普通自動車第一種免許
普通自転車運転免許
バドミントン
水泳

今までで各課で頑張ってきたこと、思いこめたり努力したことに「専攻部門（サークル）に参加することです。記者を通じて、活用することができました。記者も新聞ランニングもしていた経験があります。」

早稲田大学

Q 学部、研究科卒業後の進路を考え始めたのはいつくらいからですか？





現在の経済状況でも 公務員志望者は1割程度

卒業直後の希望進路
(所属箇所別)



公務員：9.9%、民間企業：37.4%

日本経済は、ようやく光明が見えてきたとはいえず、「好調である」とはいまだ言いにくい状況です。このような経済情勢の下では、学生の卒業直後の希望進路は安定した「公務員」が大勢を占める…と思いきや、「公務員」志望者は学生全体では1割程度でした。もっともこの比率については、所属箇所によってははっきりとした差があります。とりわけ、法学部・政治経済学部においては「公務員」志望者が2割近い一方で、同じ社会科学系学部である商学部では5%を少し上回る程度であるのは興味深いことです。

学生が選んだ卒業直後の希望進路のうち、全体で最も多かったのは、「民間企業」でした。学部学生に限ると、所属箇所別に見ても、理工学部を除くすべての学部において一番多く選ばれています。理工学部では「大学院」進学希望者が最も多くなっていますが、理工学研究科の希望進路を見ると7割近くが「民間企業」への就職を希望していますから、理工学部学生も最終的な希望進路としては「民間企業」を最も多く選んでいると見てよいでしょう。

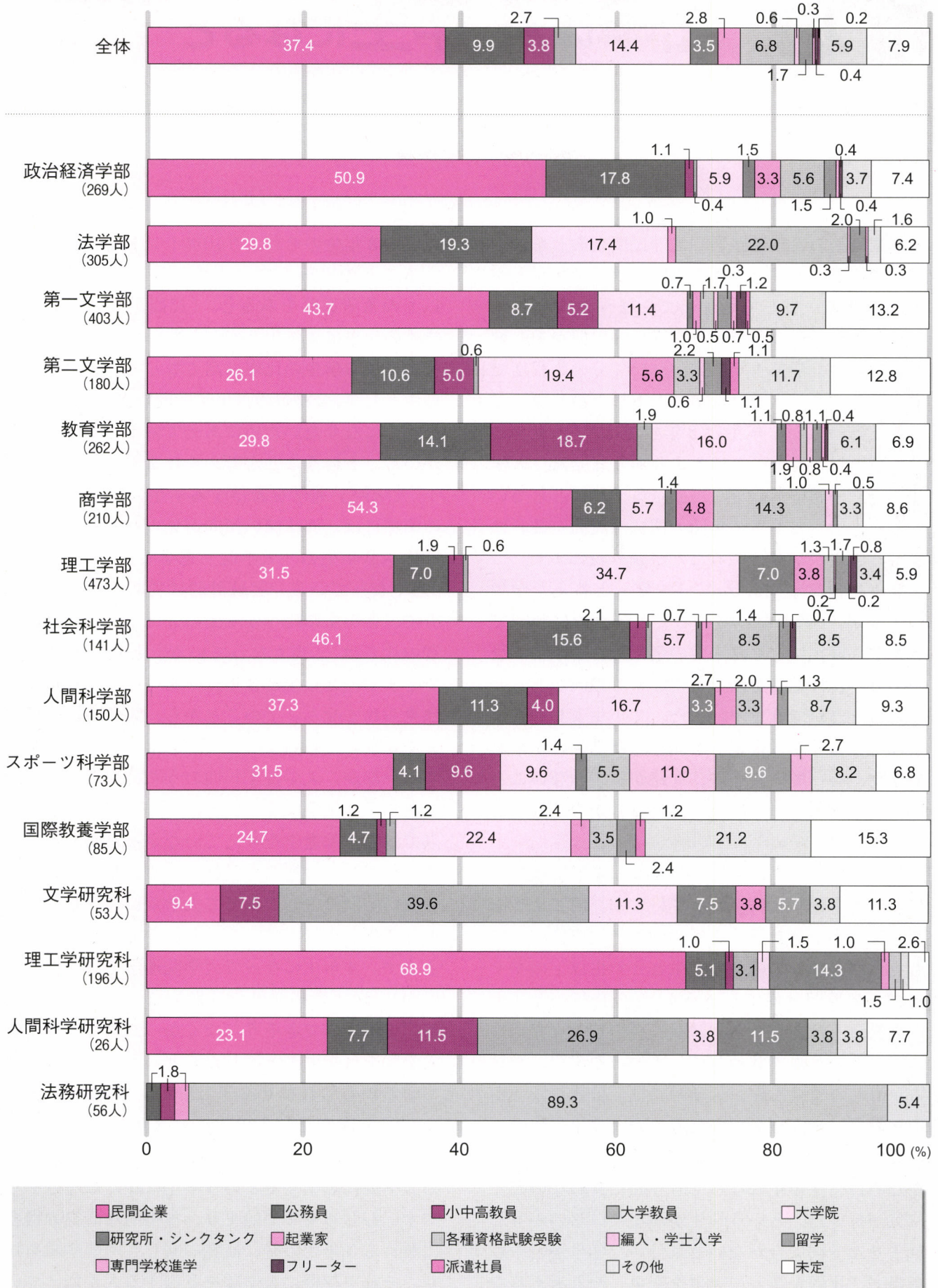
「民間企業」への就職希望者の比率が高い学部は、高い順に商学部・政治経済学部・社会科学部といずれも社会科学系の学部ですが、これは充分予想されることです。しかし、同じ社会科学系の学部でありながら、法学部だけはこの希望者の比率が3割弱と例外的に低くなっています。これは、上にあげた「公務員」志望者の多さに加え、「各種資格試験受験」希望者と「大学院」進学希望者が他の社会科学系学部に比べて多いことに起因しています。この場合の各種資格試験とは、もちろん司法試験などの法曹関係の試験と思われますが、法務研究科学生の9割が「各種資格試験受験」を希望しているという調査結果をみれば、法学部の「大学院」進学希望者も、その大半は最終的に司法試験などの受験を希望しているとみなしてよいと思われます。そうすると、あくまで調査に回

答してくれた学生に限った話ですが、法学部学生のうち最終的に「各種資格試験受験」を希望している学生は、民間企業就職希望者をむしろ上回っているともいえるのでしょうか。商学部においても「各種資格試験受験」希望者が比較的多いですが、これは公認会計士・税理士試験などの会計関係の資格取得を目指す学生たちでしょう。

教育学部では当然のこととして「小中高教員」を希望する学生の比率が高いですが、「大学院」進学を希望する学生の比率も比較的高くなっています。「小中高教員」を希望する学生の比率は第一・第二文学部でも高いのではないかと予想されますが、実際には両者それぞれにおいて5%程度で、2割近い教育学部と比べるとかなり低い比率になっています。一方で第一・第二文学部では、希望進路を「未定」と答えた学生の比率は高く、学部学生に限れば国際教養学部に次ぐ高さです。「卒業直後の希望進路(学年別)」のところで見るように(23頁グラフ参照)、1、2年生には進路未定の人が少なくなく、したがってまだ2年生までしかいない国際教養学部で「未定」と答えた学生の比率が高いことは無理からぬことですが、第一・第二文学部の「未定」率の高さはその原因が気になるところです。

第二文学部と人間科学部では「大学院」進学希望者の比率が比較的高くなっています。このことと文学研究科および人間科学研究科学生の希望進路をそれぞれ合わせみると、第二文学部と人間科学部では最終的に研究職を目指す学生が比較的多いことが読み取れます。国際教養学部でも「大学院」進学希望者の比率が高いですが、希望進路として「その他」と回答した学生の比率が他学部に比して突出して高くなっている点も目に付きます。国際教養学部学生が、就職でも大学院進学でも留学でもない進路としてどのような道を考えているのか、興味を引かれるところですよ。

学部研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 所属箇所別 (大学院は一部抜粋)





公務員や教員を目指す人の 比率は4年生になると半減

卒業直後の希望進路
(学年別)



3年：18.0% ⇒ 4年：9.3%

卒業直後の希望進路として「民間企業」を選ぶ学生の比率は、5年生以上を除けば、学年が上がるとつれて一貫して増加しています。大学院学生も含めた学生全体では4割近い「民間企業」就職希望者も、学部1年生に限れば4分の1程度です。これが2年生では10ポイント以上高くなっています。一方、1年生と2年生では、「未定」と答えた学生の比率の差はあまりありません。入学時に将来の希望進路を「民間企業」以外としても、入学してから1年間の間に「民間企業」に変える学生がかなりいることが読み取れます。

3年生は2年生に比べ、「未定」と答えた学生の比率が、「低くなっている」と統計的に判断できます。ゆえに、進路未定の学生も、2年生の後半くらいには進路を決めようとする傾向があると考えることができます。また、4年生よりも5年生以上のほうが「未定」と回答した学生の比率がやや高くなっていますが、進路が定まらないことが留年の誘因の一つになっているのかもしれません。

「公務員」を選ぶ学生の比率は、4年生は3年生に比べ半分程度に下がっています。同じような傾向は「小中高教員」を選ぶ学生の比率についても見られます。この「4年生と3年生以下のギャップ」の原因は何でしょうか。「公務員」と「小中高教員」は、どちらも試験に合格しなくてはならないという点で共通しています。やや穿った見方かもしれませんが、入学時には「公務員」、「小中高教員」を志望していたものの、3年生の中ごろまで特にこれといった試験準備をしていなかったために、4年生になってもう間に合わないことに気が付いた、という学生がかなりいるのかもしれません。間に合わないと感じた学生が、やむを得ず「民間企業」に志望を変更したと考えるならば、4年生で「民間企業」を選んでいる学生の

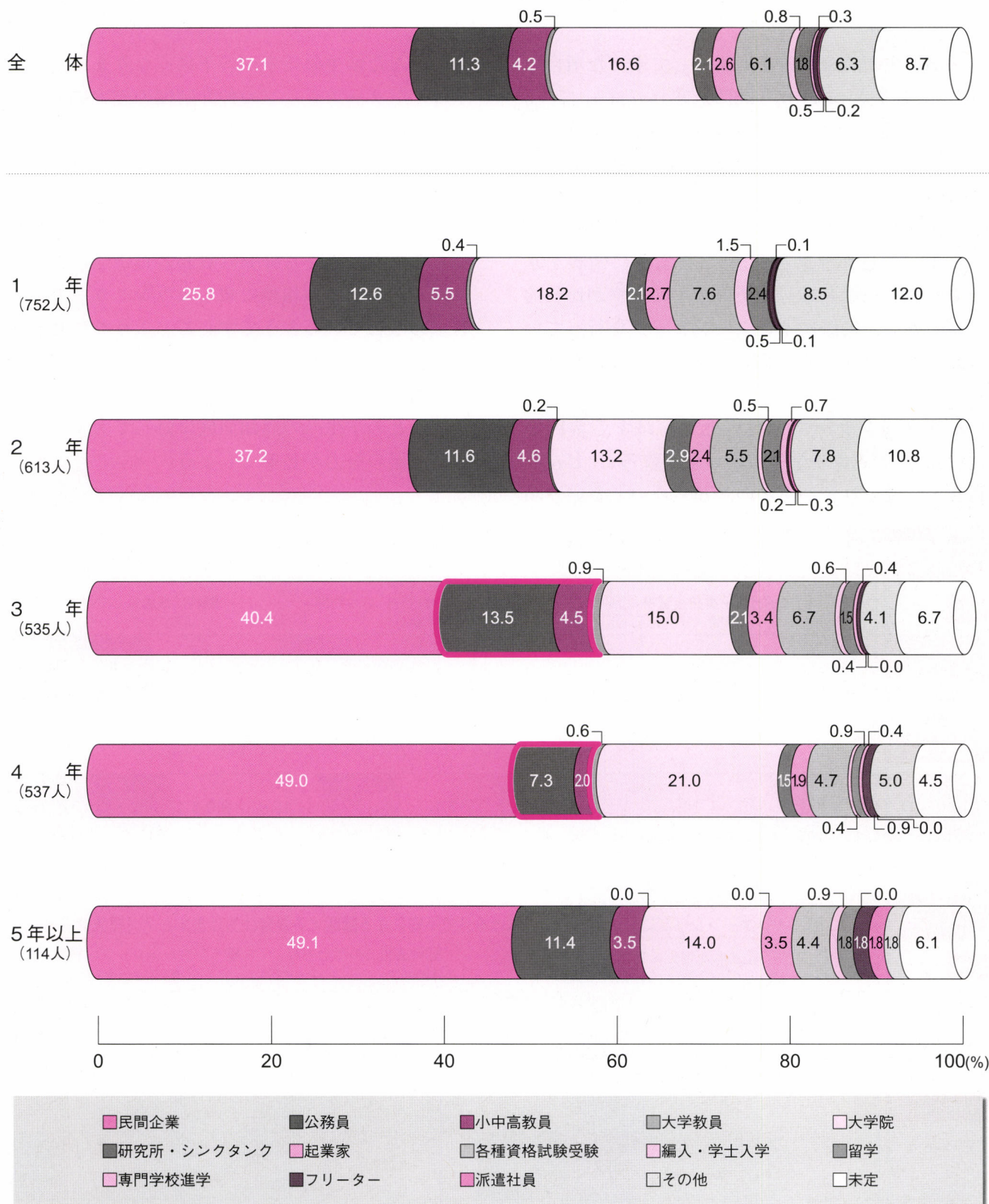
比率が3年生のそれより10ポイント近く上がっていることの説明もつきます。ところで、5年生以上の希望進路をみると、「民間企業」を選んだ学生の比率は4年生と変わらないのに、「公務員」を志望する学生の比率は高くなっています。その理由として、公務員の採用年齢制限が比較的高い、公務員になりたいためにあえて留年している学生がいる、ということが考えられます。

「大学院」進学を希望する学生の比率と学年との関係には、興味深い傾向が見られます。1年生に比べ2年生の「大学院」進学希望者の比率は、「低くなっている」と統計的に判断できます。一方で、3年生に比べ4年生の「大学院」進学希望者の比率は、「高くなっている」と統計的に判断できます。2年生と3年生のあいだには有意な差は見られません。このことから、入学時に大学院まで進学して勉強することを志望していた学生たちの一部が、入学後1年間のうちに何らかの理由で進学する気をなくし、その一方で、3年生の時点では大学院進学を考えていなかったが、4年生になり卒業後の進路を最終的に決定しなければならない時期にさしかかって大学院に進学したいと思う学生が出てきている、という構図が浮かびます。4年生になって大学院進学を決めた学生の中には、「資格取得を目指していたが、学部4年間では合格できそうになくなったので、専門職大学院を目指すことにした」という学生も含まれているのかもしれません。しかし、「各種資格試験受験」を選んだ学生の比率は3年生と4年生では2ポイントしか変わりませんから、資格取得のため大学院に志望変更という学生は多くはなさそうです。むしろゼミが始まり、本格的な研究の機会に触れる3年生の時に研究の楽しさや醍醐味を知り、それを契機に大学院を意識する人が増えているといえそうです。

入学時に大学院進学を志望していた学生が入学後1年経つうちに進学する気をなくす理由は何でしょうか。本調査の記述回答を見てみると、「授業を改善してほしい」といった趣旨の回答がたいへん多く寄せられています。大学の授業に失望し

た結果、大学院に進学する気をなくす学生が多いのかもしれませんが。あるいは、入学当初は大学院に対して漠然としたイメージを抱いていた新入生が入学後に具体的な情報を得て、自身の適性などを見極めた結果と考えることもできます。

学部 学部研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 学年別





大学はインターンシップの 仲介・相談業務の一層の充実を！

民間企業志望者と
インターンシップ



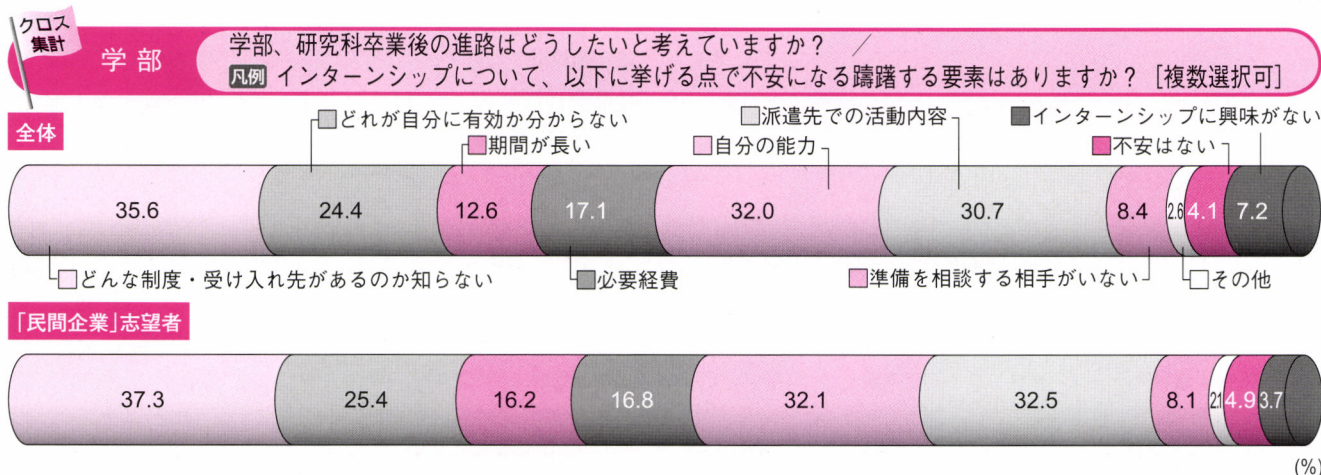
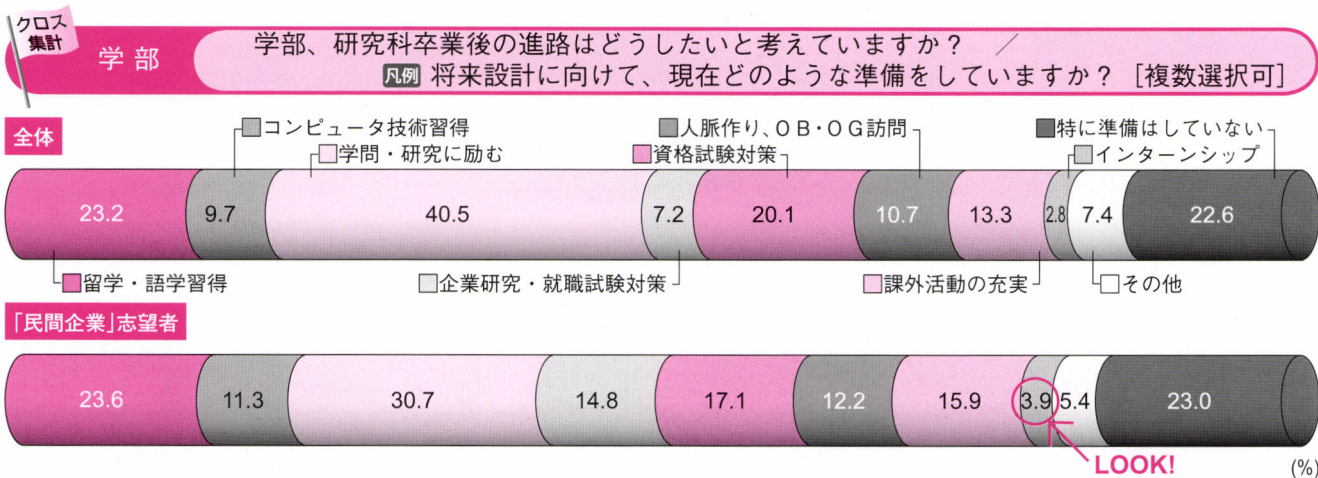
インターンシップについて躊躇する要素（民間企業志望者）「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」**37.3%**
「どれが自分に有効か分からない」**25.4%**「準備を相談する相手がいない」**8.1%**

学部学生が将来の希望進路として挙げた項目のうち、最も多かったのが「民間企業」（37.1%）です。

「民間企業」志望の学生に限った場合、「インターンシップ」についての情報を大学から提供してもらいたいと回答している学生の比率は、学部学生全体における比率より7ポイント近く上回っています（次頁グラフ参照）。このように情報を求めている「民間企業」志望の学生の比率が比較的高い一方で、実際にインターンシップを行っているとは回答した「民間企業」志望の学生の比率は低く、わずか4%弱です。

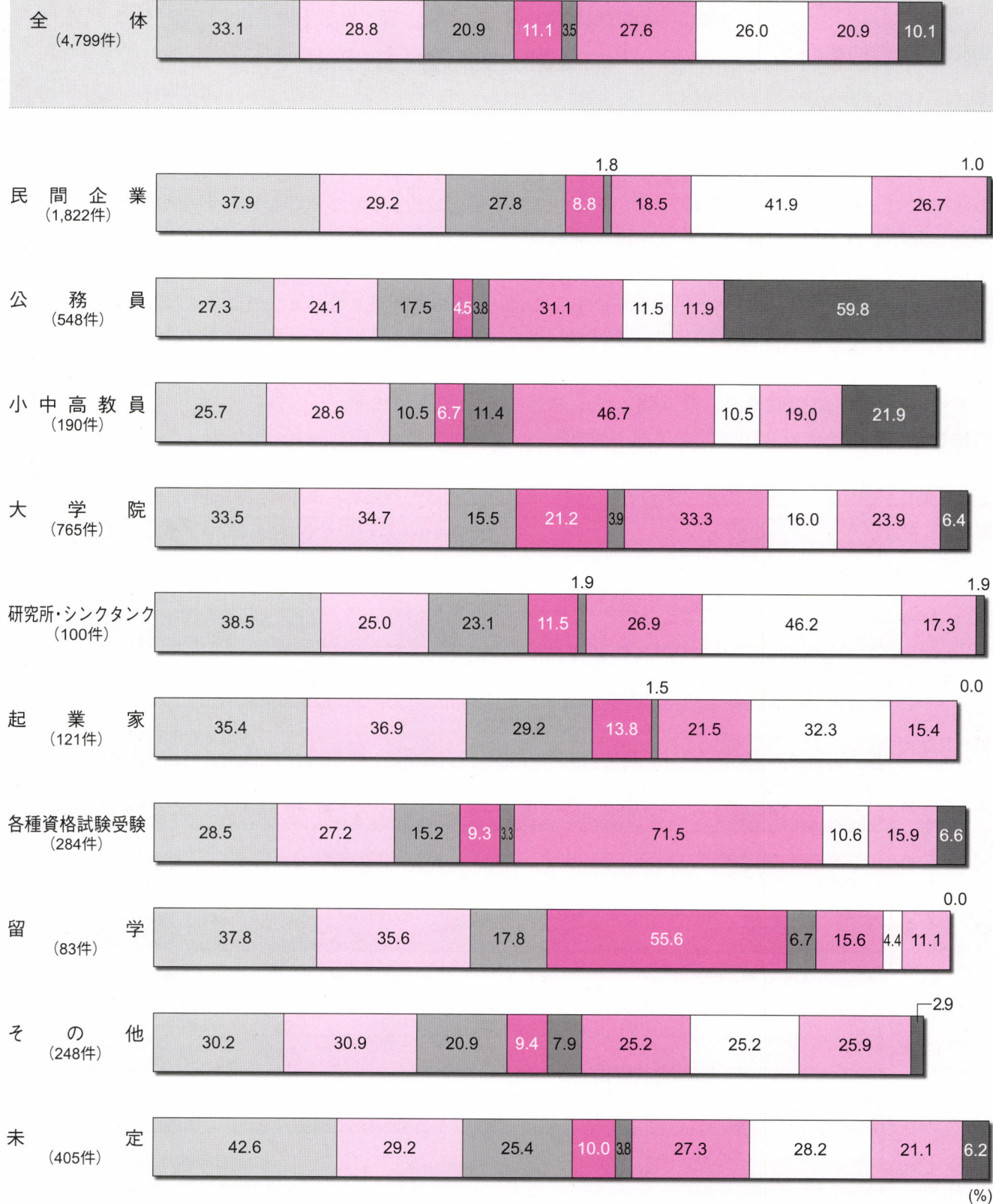
インターンシップを行う上で躊躇する要因を「民間企業」志望の学生に聞いたところ、「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」という項

目を選んだ学生の比率が若干高くなりました。大学はインターンシップの仲介制度の充実にもっと力を入れるべきなのかもしれません。さらに「どれが自分に有効か分からない」という項目を選んだ学生の比率も高いですし、「準備を相談する相手がいない」という項目を選んだ学生の比率も高いことから、単なる仲介に終わるだけでなく、インターンシップの相談に乗るカウンセラーの役割も求められているようです。このような仲介・相談業務を行うインターンシップオフィスが今年1月からキャリアセンターに設けられていますが、そのことの学生への周知徹底に対して大学としては、一層の努力が必要でしょう。



学部、研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？（一部抜粋）／

凡例 将来設計についてどのような情報サービスを大学から提供してほしいですか？〔複数選択可〕



■キャリアプラン設定のアドバイス・教育

■留学

□企業情報

□キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法

■ボランティア

■O B ・ O G の進路に関する情報

■インターンシップ

■資格取得

■公務員情報



資格の法学、学問の理工、 語学の国際教養…

将来設計に向けた
準備状況：学部間の差



法学部「資格試験対策」**44.4%**、理工学部「学問・研究に励む」**51.1%**
国際教養学部「留学・語学習得」**76.2%**

学生が将来設計に向けて現在行っている準備の状況には、学生の所属箇所によってかなり差が見られました。「卒業直後の希望進路（所属箇所別）」のところで見たように、学生の希望進路の比率も所属箇所によってかなり違っていました。その違いが準備状況に反映しているのでしょう。

まず、「留学・語学取得」に取り組んでいると回答した学生の比率は、国際教養学部が群を抜い

て高くなっています。学部の性格・取り組みを考えれば当然のことかもしれませんが、逆の見方をすれば、国際教養学部以外の学部においては「留学・語学取得」に取り組んでいる学生の比率は相対的にかなり低いということになるわけで、この国際化の時代、たとえ「国際」を名乗る学部でなくともこの比率はもっと高くてよいのではないかと思います。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？ [複数選択可] 所属箇所別



「学問・研究に励む」と回答した学生の比率については、理工学部の高さが目を引く一方で、法学部を除く社会科学系学部である政治経済学部・商学部・社会科学部の相対的な低さも目立っています。理工学部では「大学院」進学希望者が多く、法学部を除く社会科学系学部では「民間企業」志望者が多いことは、「卒業直後の希望進路（所属箇所別）」のところでも既に見ました。「大学院」進学希望者が多ければ「学問・研究に励む」学生が多いのは当然のことでしょう。「卒業後の希望進路」と「大学での授業や研究勉強は将来の進路先で役に立つと思うか」という質問とのクロス集計グラフを見てみると、授業や研究勉強が役に立つと「思う」と回答している集団に含まれる「民間企業」志望者は、「やや思う」「あまり思わない」「思わない」と回答している集団に含まれる「民間企業」志望者に比べ、相対的に比率が低くなっています。この集計は大学院学生の回答を含んでいますが、学部学生に限ればこの差はより顕著になるのではないかと考えられます。そしてこの差こそが、法学部を除く社会科学系学部で「学問・研究に励む」と回答した学生の比率が低いことの

理由でしょう。

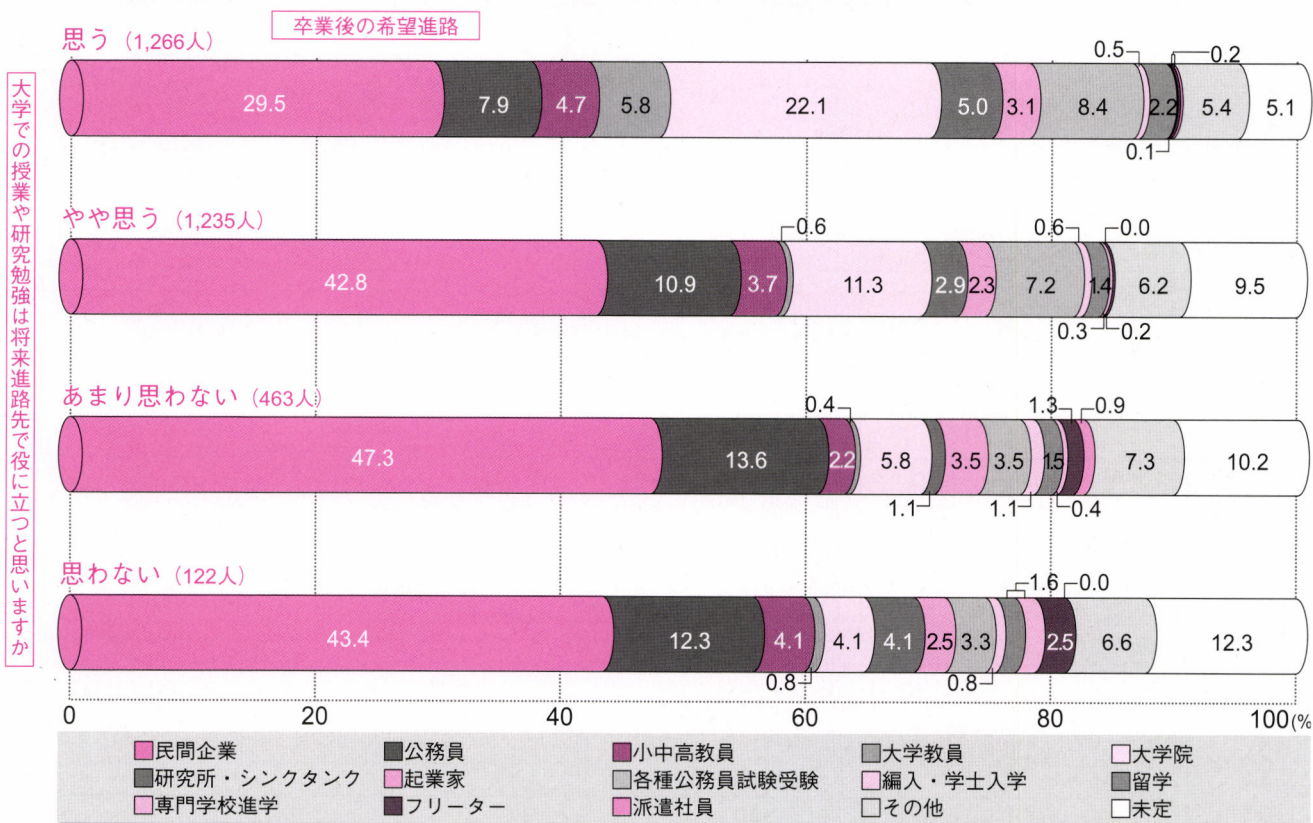
社会科学系学部でも法学部だけは「学問・研究に励む」と回答した学生の比率がさほど低くありませんが、これは法律分野の資格試験受験を考えている人が多いためでしょう。実際、法学部では「資格試験対策」に取り組んでいると回答した学生の比率が他学部と比べはるかに高くなっています。商学部や社会科学部も「資格試験対策」に取り組んでいると回答した学生の比率は比較的高いですが、法学部に比べれば「学問・研究に励む」学生は、10ポイント以上低くなっています。

なお、社会科学系学部の中で政治経済学部だけは「資格試験対策」に取り組んでいると回答した学生が2割を切っています。これほど顕著ではないにせよ、「インターンシップ」をやっていると回答した学生の比率について政治経済学部だけが5%を超えていたり、「企業研究・就職試験対策」に取り組んでいると回答した学生の比率について商学部だけが10%をこえていたり、同じ社会科学系であっても学部によって差異が見られるのは、興味深いことです。

クロス集計

大学での授業や研究勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？

凡例 学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？





過半数の学部学生は希望進路を大学時代に決める

卒業後の希望進路
決定時期



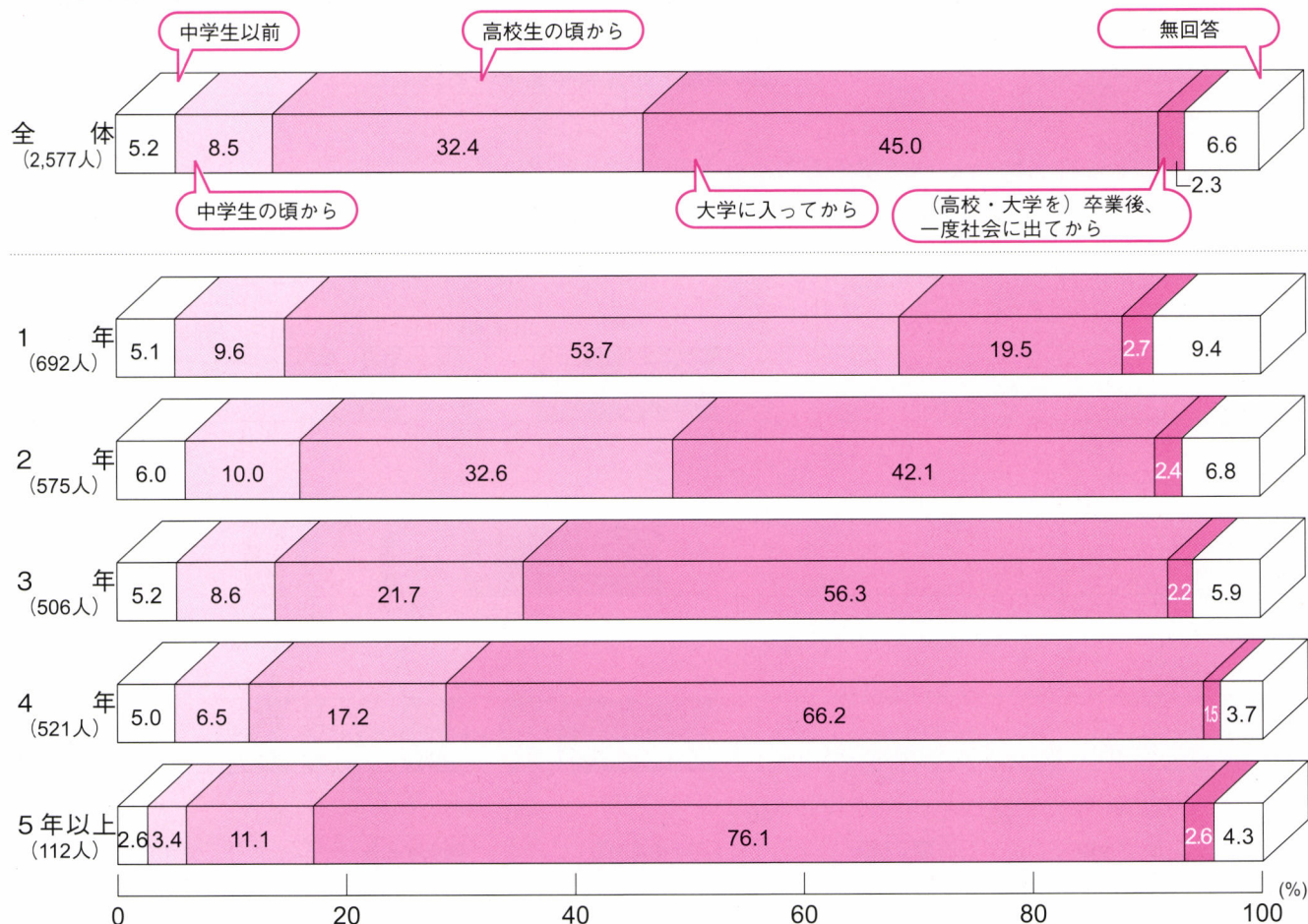
「希望進路を考え始めたのは大学に入ってから」
と回答した4年生：**66.2%**

4年生に卒業後の希望進路を尋ねると、およそ95%が「未定」以外の何らかの項目を回答しています（23頁グラフ参照）。そして、その希望進路の決定時期を尋ねると、およそ7割が「大学に入ってから」と回答しています。多くの学部学生にとって、大学は「自分の将来を見定める場」となっているようです。

学部別に見ると、希望進路の決定時期を「中学生以前」と回答している学生の比率が教育学部学生において比較的高くなっています。当然のことながら、教育学部では「小中高教員」を志望する学生の比率が比較的多い（18.7%）わけですが

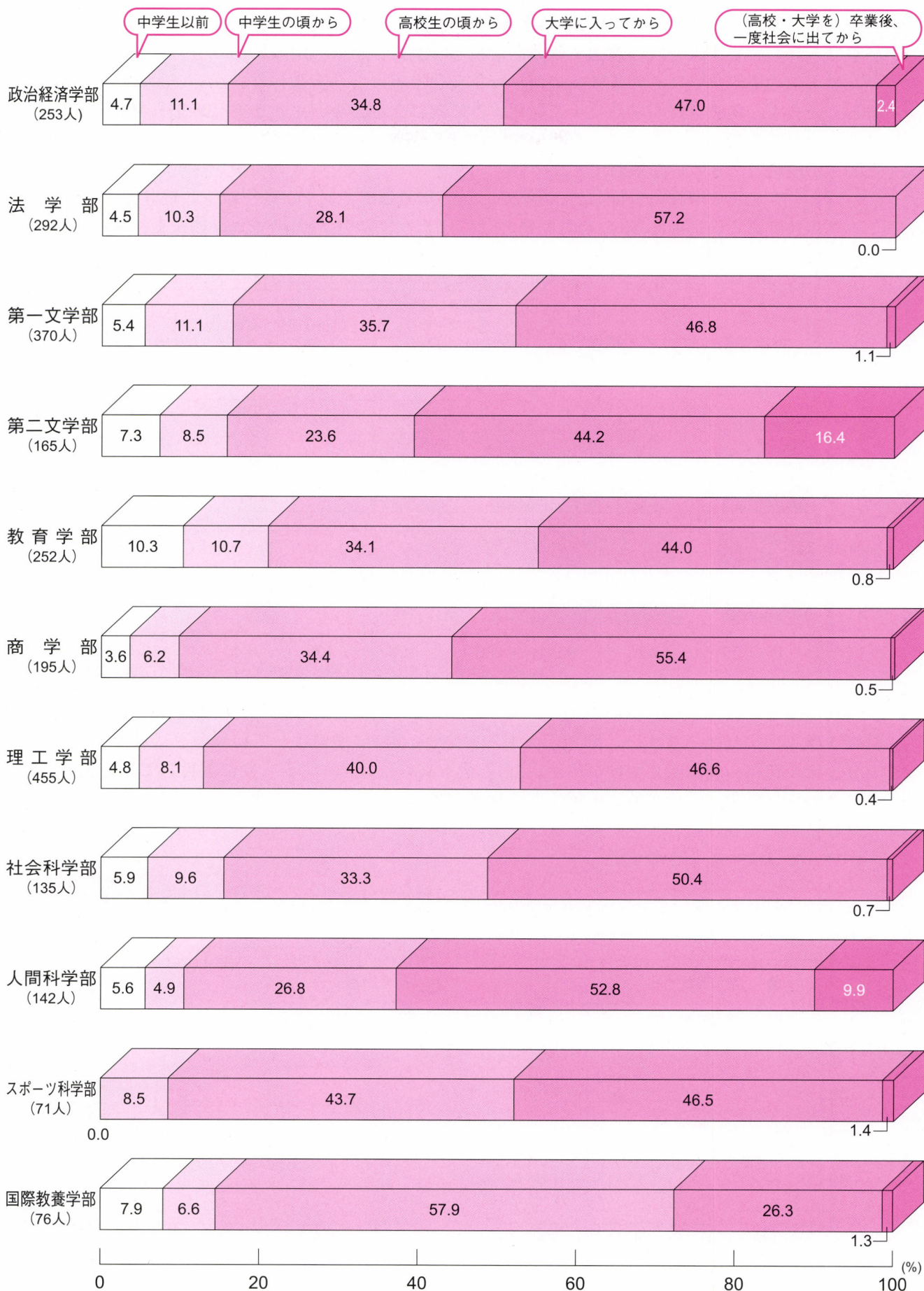
（21頁グラフ参照）、教員を目指すきっかけは小学校における体験なのかもしれません。また、決定時期を「高校生の頃から」としている回答の比率が理工学部学生において比較的高くなっています。高校における体験が、科学技術系の仕事に就こうと考えるきっかけとなった理工学部学生は多そうです。なお、スポーツ科学部学生と国際教養学部学生にも決定時期を「高校生の頃から」としている回答の比率が比較的高くなっていますが、現在スポーツ科学部が3年生まで、国際教養学部が2年生までしかいないことから、単純に他学部と比較することはできないでしょう。

学部 学部、研究科卒業後の進路を考え始めたのはいつくらいからですか？ 学年別



※「無回答」の選択が多かったため、「無回答」選択者を含めて集計。

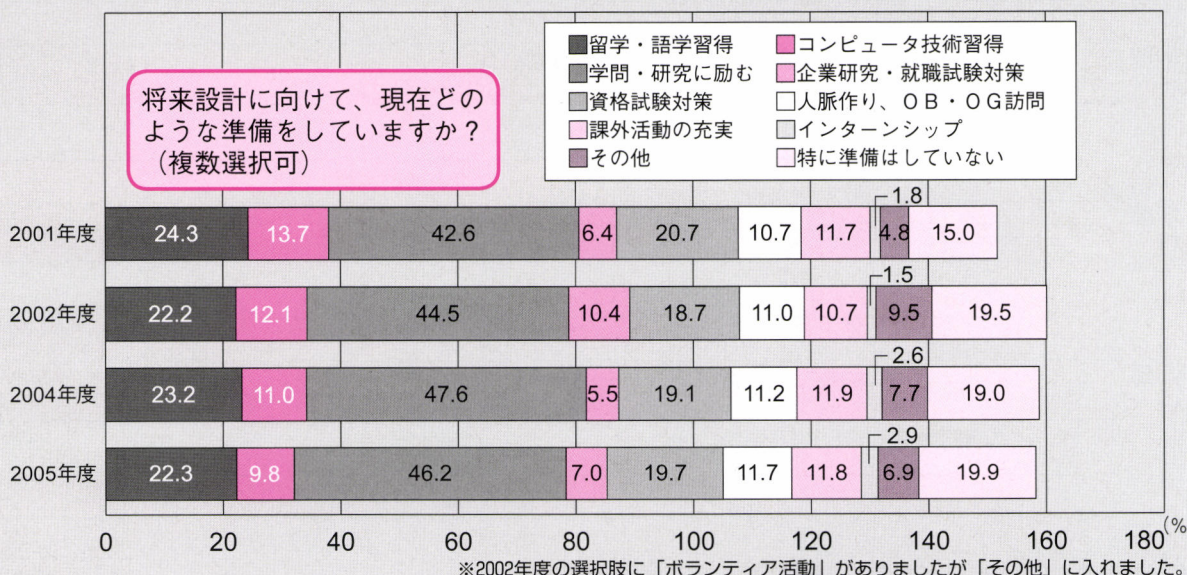
学部 学部、研究科卒業後の進路を考え始めたのはいつくらいからですか？ 所属箇所別



コラム

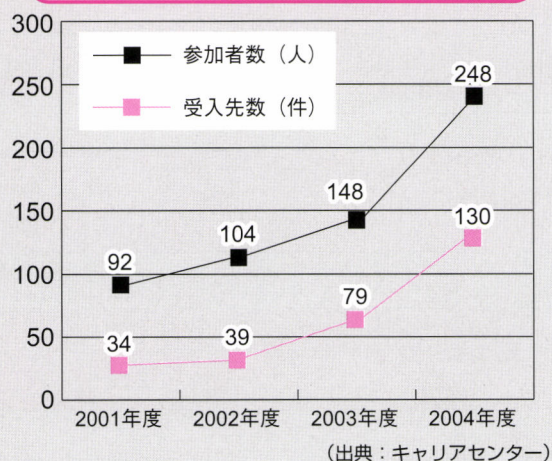
将来設計に向けての準備として、「学問・研究に励む」が最も高く、次いで「留学・語学習得」が挙げられています。普段の勉強・研究を重視しながら、かつ、国際舞台の場へ視野を向けている早大生の姿が見受けられます。また、経年変化を追うと「人脈作り、OB・OG訪問」が微増しています。就職活動が早期化・長期化する傾向にある昨今、キャリアセンターが低学年からのキャリア選択のモデルプランを奨励する中で、OB・OG等の人脈を活用しての情報収集の重要性が浸透してきている表れでしょうか。

一方、「コンピュータ技術習得」は2001年から2005年ではポイントが唯一減少し続けています。IT化が目覚ましい進展を遂げ、現実問題として日々の学習・生活の場でコンピュータスキルが求められる中、もはやスキルは将来に備えるものといった意識は低下しつつあるのでしょうか。



気になるところで、「特に準備はしていない」が毎年2割程度となっています。今年の調査結果を学年別に見てみると、学年が上がるにつれ、「特に準備はしていない」は減少傾向にあります。逆に、経年変化で伸び率が1.6倍と最も高いインターンシップに着目してみると、2年生から3年生にかけて約5ポイントの増加が見られました。3年生の時点でインターンシップに積極的に参加し、インターンシップでの体験を参考にその後の進路選択を行おうとする人が増えてきているようです。

「カリキュラム型」インターンシップの参加者数・受入先数



将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？（複数選択可）

一部抜粋

